

佳作 「残さず食べよう」

作野小学校 加藤 淳也

ぼくにとって給食の時間はとても楽しい時間です。それはおいしいごはんが食べられるし友達とも楽しい話がたくさんできるからです。

ぼくは小さいころは食が細くて食べるのに時間がかかりました。一年生のころは時間内に食べなきゃときん張っていたけれど、今ではおかわりもほとんどできるようになるぐらいたくさん食べれるようになりました。ぼくが好きなメニューは、カレーと米粉パンとビビンバです。どのメニューもおいしくて食べるとパワーがついてくるような気がします。このメニューがでる日はとてもうれしくなり

「よっしゃあ。」
と、心の中でガッツポーズをしてしまうくらいとてもうれしくなります。

お母さんが子どものころの給食は今のぼくたちが食べているものとあまりかわりはないけれど、おばあちゃんの時はちがったみたいです。給食が始まったのはおばあちゃんが中学生くらいからだったそうです。コッペパンという中に何も入っていないパンとクジラのお肉などのおかずが一品、だっし粉乳という粉ミルクだったそうです。このだっし粉乳がとて

もくさくておばあちゃんは苦手できらいだったそうです。それにデザートは運動会などの特別な日にぐらいしか出ず、四分の一ぐらいの大きさの果物だったそうです。昔と比べると今の給食はすごくうかになったんだなと思いました。

お母さんに給食で良いところはと聞いてみると、
「安くて、栄養も考えてあるから、助かるよね。」

と言っていました。ぼくもそうだなと思いました。それは、学校の授業で給食はぼくたちの成長に必要な五大栄養素がふくまれていると勉強したからです。それに給食ではきょう土料理が出たり季節の行事に合わせてメニューが考えられていてぼくたちがあきないように工夫されているのだなと思いました。

その栄養満点の給食。だけどぼくたちのクラスはたまに給食が残ってしまう時があります。ぼくはそれを見ると「もったいないな。命をいただいているのに申しわけないな。」と思います。

みんなが好ききらいせずに感謝の気もちを持って完食できるようにしたいです。